

「神の子どもとして生きる」

ヨハネの手紙第1 3章1~6節

1

私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようなになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。 1ヨハネ3:1-2

2

キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。あなたがたが知っているとおりに、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。 1ヨハネ3:3-6

3

父なる神の愛を知る

- 神の愛を心に留める ヘブル12:2-3
- 神は「あつてある」方 出エジプト3:14
- 人間は「あつてないような」者 ヤコブ4:14
- 人間は「神にあつてある」者 「私たちは神の中で生き、動き、存在している。」 使徒17:28
- 罪によって壊れた神との関係を、イエス・キリストが回復させた。
- 罪は神を「忘れる」こと。

4

父なる神の愛を知る

- キリストに救われた私たちは、「キリストにあつて」生きている者。「キリストにあつてあるもの」
- 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し、私たちの罪のために、宥(なだ)めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。 1ヨハネ4:9-10
- その愛を覚えよ！忘れるな！

5

父なる神の愛を知る

- 私たちは「事実」、「今すでに」神の子ども。
- キリストをありのままに見る 1テモテ6:16
- 希望をもって今を生きる。1ヨハネ3:2
- 死後に間違いなく天国に入る方法？
- 今、天国(天の国=神の国)の中で生きること。
- 天国に入るのはいつ？今でしょ！

6

世は知らない

- 宇宙の主である神が、私たちの心、生活、人生の中心でなければならぬ。私たちはその方の子どもたち。(王室、王族)
- 世は神を知らない。世の言葉よりも神の言葉に従って生きる
- 主を恐れることが知恵、知識のはじめ。箴言 1:7、9:10
- 知っている者の責任 ルカ12:48
- イエス様の態度 ルカ23:34、使徒7:60

7

父の使命は子の使命

- あなたがたが知っているとおりに、**キリストは罪を取り除くために現れた** 1ヨハネ3:5
- 神の愛には目的がある。父の目的は子どもたちの目的
- 神の子どもたちには使命がある
- 使命=ミッション
- 今日の「ミッション・スクール」?

8

父の使命は子の使命

- 罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。3:4
- 罪は神の支配(国)を受け入れない。神よりも自分の支配に従う=悪魔の支配
- イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」ヨハネ 8:31-32
- この世的、悪魔的な自由は本当の自由ではない。

9

子どもは父の性質を受け継ぐ

- 親子の親しい関係に生きる祈り=主の祈り
- 子はキリストと共同相続人。ローマ8:17(苦難も)
- 神の子どもは、天の父から訓練を受ける。ヘブル 12:10-11
- もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。1ヨハネ1:7 光の中で成長する。

10

神の子どもとして生きる

- 良い行いをして救われるのではない。よい行いをするために救われている。エペソ2:10、テサ2:14
- 今のすべての苦しみ、困難は、後にはなくなる。しかし、この世に生きる限りそれらはなくなるなら、神を信頼し、神と一緒に乗り越える。
- 神の子どもは神と一緒に成長する。光の中で。
- 神の子どもたちは、父の御性質(御霊の実)と使命を受け継いでいる。
- 神の愛から目を離さない。いつもいっしょに。

11

神の子どもとして生きる

私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

1ヨハネ3:1

12